

アカアシコハナコメツキ *Paracardiophorus sequens sequens* (Candèze)

【選定理由】

本種は海浜性で、乾燥した砂浜に生えているハマヒルガオなどの根株周辺で見いだされる種である。愛知県では伊勢湾台風ののち、海浜の護岸工事があちこちで行われたため、砂浜の多くが減少した。また、最近では三河湾の海岸造成が大規模で行われており、そこでも多くの砂浜が消滅している。その他、各地で海岸への漂着物が多くなり、清潔な砂浜が減少している。本種は砂浜の自然環境を知る指標種としても重要である。



【形態】

体長は5mm内外、雌はときに体長が7mmに達する。体は黒色で上翅はやや虹色の光彩を有する。触角は黒色で肢は黄橙色を呈し、腿節とふ節の第5節は暗褐色を呈する。

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県では、渥美半島の内側で大規模な港湾造成工事が行われており、そこでの発生の大部分は失われている。ただ、三河湾島嶼では、まだ砂浜が残っていて、そこでの減少は少ない。

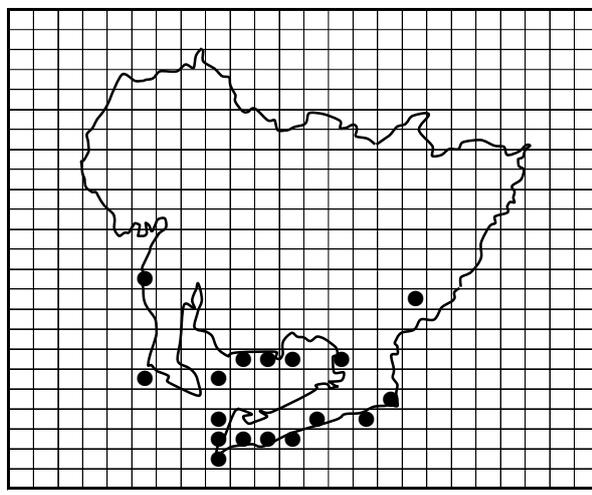
【国内の分布】

本種は北海道から九州の各地の海岸線に沿って広く分布する種であった。しかし、現在は海浜の汚濁や各地の護岸工事などで良好な砂浜が失われ、全国的にも絶滅が心配されている種になっている。

【生息地の環境／生態的特性】

本種は乾燥した海浜砂地性の種で、成虫はそこに生えている草の根株周辺に生息し、その砂地中で幼虫も育っている。従って、その砂浜が漂着物などで汚染されたり、護岸工事などで失われると、生息できなくなる。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

往時は各地の海岸砂浜に普通に見られた種であるが、現在では生息できる砂浜は減少していて、むしろまれな種になっている。

【保全上の留意点】

本種が生息する清潔な砂浜を保全して、生息地でのこれ以上の個体数の減少を防止することが必要である。また、人為的に砂浜を再生することも重要と思われる。

【関連文献】

浅岡孝知, 2003. 豊橋市金色島の昆虫. 三河の昆虫, (50): 543-546.

大平仁夫, 1997. 日本産コハナコメツキとそのその近似種について (甲虫目:コメツキムシ科). 比和科学博物館研究報告, (35): 1-16, 14pls.

(2009年版を一部修正)